工廠が壓迫の裏を掻いた夜の演說會

寒風の中に立つて耳を澄ます

悲愴の氣に滿ちて

昨紙報の通り呉市における賀川豊彦氏及び大阪向上會八木會長以下幹部總出動によつて大々的に行はれた普選期行、失業救濟の大演說會は八日午後一時から呉座において開催せられ、新人を迎へた呉の勞働界は先づ新奇勞頭の氣勢を揚げ

呉勞働史上に

特筆すべき印象を與へて第一會場を盛會裡に閉會したのは午後五時であつたが此日呉署では升川高等係長自ら臨席して署員全部を召集して萬一に備へ、會場內には制服三十名私服數十名を派して警戒したが他の全部は會場裏手の國の家料亭とカフエーブラジルとに伏せて今や遅しと出動準備を整へて物々しい光景を呈してゐた

當日海軍工廠

が賀川氏一行の大擧遠征に脅かされて、前日既に日曜日を出勤として對抗的態度に出て『觸らぬ神に祟りなし』と因襲的壓迫手段を以て勞働者の自由を束縛した然るにも拘らず晝間の演說會が豫期以上大盛會で三千の聽衆を入れて氣勢が上にも揚り遂に

向上會支部も

設立するに到つたので更に夜間、工廠の職工の裏を掻いて第二次演說會を開くことゝなり呉座の演說會が將に終らんとする間際に今西通り十丁目救世軍で午後七時から開催することゝなり職工のみを糾合することゝなつた

此徹底運動は

遂に效を奏して、午後六時既に會場には立錐の餘地なきまでに聽衆が詰め掛けた、放たれたる小鳥の如き自由な勞働者は今日一日の鬱憤の情を晴らさんと熱心な出動に、寒風に身を切られる中を、會場に溢れて塀外の庭に佇ずんだものが數百名に上つて居た、呉隊當二二君の

開會の辭に次

いで吉田向上會副會長先輩を承はりて『勞働者は自由の權利あり』と絶叫して八木會長は九千の砲兵工廠職工の希望を一身に集めてゐる吾國勞働運動者の花形たるにたがはず、徹底せる議論と熱烈なる口調に依つて聽衆を醉はし、來る可き議會に於ては、普選と

失業問題を携

へて代表者の上京をなさしめ死なしめ勞働者の爲に努力せしめなくてはならぬ、之には大正の佐倉宗五郎が必要である、呉三萬餘の勞働者中十人や二十人の義人は出づるであらうと叫んで大喝采を博し其れより鈴間と同樣座中、菅、川、內藤、行政の諸氏熱辯を揮ひ最後に

賀川豐彦氏は

勞働運動の根本義に遂に約一時間の熱辯を揮ひ死線を越えて來れる勞働運動の悲痛な叫びに聽衆は感激して一種悲壯な光景を呈し夜の十一時勞働者萬歲の聲に寒空を騷がせて閉會した斯くの如くにして思ふ存分の勇躍を試みた一行は大谷旅館に一先づ引き揚げた

堅き握手

眞の覺醒を見る迄は？

呉に於て昨年十一月以來失業手當を要求して議會請願運動をしてゐた關戸城氏等の同志と、賀川、八木氏等とは此處に固き握手が取交されて向上會支部設立の段取りとなり

…新春勞頭から大活躍をすることゝなつた

久しく眠つて

ゐた呉の勞働界に復活の惠みを與へた賀川氏一行は別項の如く同日午後五時からブラジルカフエーで大懇親會を開き祝杯は僅の洋食に依つて揚られ、賀川氏の昨夏の神戸の勞働爭議の悲痛な回顧談やら勞働運動に對する意見やらで暫くは勞働者の分が機上に漲つてゐた八木向上會長は席上一吾等は呉の勞働者が

眞に自覺する

まで否工廠當局の頭が眞に改造せられるまで徹底的に運動を繼續する皆である此の後も機會ある每に來呉して運動することを契ふと述べて互ひに固き握手を取り交した

賀川氏一行の呉工廠參觀

森本工廠長と意見交換

賀川氏一行は昨九日午前十時から一行八名呉工廠を參觀することゝなり工廠本部に向つたが森本工廠長は一行を應接の間に迎へて暫らくは失業問題勞働問題に就て意見を交換し其れより幹部の案內で順次

各工場を參觀

したが何分にも阪神の勞働運動の代表的猛者連を集めてゐるので各工場に對する一種の示威運動の如くにも見えたが、工廠側高幹部とは相當の諒解があつたらしく、今日までの

不當な壓迫も

或は部長或は工廠主任等の專斷的不都合な點もあつたことが判り工廠の長夢を破るアクセントは與へられた同一行は多分今日午後六時で歸阪するであらう

賀川氏夫人は

一昨八日午後四時賀川氏の實弟富敬氏に送られて呉驛から單獨で廣島へ向つたが同夜宮島へ一泊八日夜賀川氏と廣島で一緒となり歸阪の筈

向上會支部も

代表者を送る

向上會支部の設立と共に呉に於ても本部同樣來る可き議會運動に參加することゝなり廿四日頃十名の上京代表委員を送ることゝなつた關戸氏等同志は愈々實際的に活動を續けることゝなり一般職工中にも多數の共鳴者がある模樣

◇賀川氏歸る

昨九日賀川氏一行は海軍工廠を視察したるが工廠當局者は非常なる好意を以て叮嚀なる待遇を爲し有らゆる便宜を與へたるのみならず賀川氏は更に當局と失業問題に付き何等か懇談を爲す所あつて午後四時一先づ旅館大谷に引揚げ午後五時二十八分發汽車にて大成功を納めて神戸に歸つた